



2020年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年5月8日

上場会社名 株式会社湖池屋
 コード番号 2226 URL <https://koike-ya.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年5月15日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 小池 孝
 (氏名) 藤巻 修道
 TEL 03-3979-2116

(百万円未満切捨て)

1. 2020年6月期第3四半期の連結業績(2019年7月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第3四半期	27,290	7.0	499	29.4	589	31.9	303	41.3
2019年6月期第3四半期	25,513	8.9	385		447		214	

(注) 包括利益 2020年6月期第3四半期 294百万円 (16.3%) 2019年6月期第3四半期 253百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第3四半期	56.85	
2019年6月期第3四半期	40.25	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年6月期第3四半期	22,892	12,349	53.5
2019年6月期	22,532	12,297	54.1

(参考) 自己資本 2020年6月期第3四半期 12,237百万円 2019年6月期 12,186百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期		0.00		40.00	40.00
2020年6月期		0.00			
2020年6月期(予想)				40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年6月期の連結業績予想(2019年7月1日～2020年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,500	7.5	850	25.5	860	18.8	450	22.2	84.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年6月期3Q	5,335,000 株	2019年6月期	5,335,000 株
期末自己株式数	2020年6月期3Q	843 株	2019年6月期	843 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年6月期3Q	5,334,157 株	2019年6月期3Q	5,334,212 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに变更いたしました。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績は次のとおりです。

売上高は、27,290百万円（前年同期比7.0%増）となりました。利益につきましては、営業利益499百万円（前年同期比29.4%増）、経常利益589百万円（前年同期比31.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益303百万円（前年同期比41.3%増）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

<国内>

2020年6月期の戦略として打ち出している、高付加価値商品の売上拡大、定番商品等の収益改善、新規商材開発に、引き続き取り組んでいます。当第3四半期連結会計期間においては、主要商品で積極的な広告販促活動を行ったことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大に起因すると考えられる需要増も一部に見られ、売上は好調に推移しました。なお、本社・営業における在宅勤務や時差出勤の推奨、工場における検温の徹底等、新型コロナウイルス感染対策を早期に実施し、製販ともに大きなトラブルなく事業を継続いたしております。

商品面においては、「PURE POTATO ジャがいも心地」シリーズで、2020年1月に、「ジャがいも心地 オホーツクの塩と岩塩の合わせ塩味」、「ジャがいも心地 富良野産生乳のバター」、「ジャがいも心地 有明海の恵み 焼き海苔」の3品を100g規格で発売しました。また、2020年2月には当該ブランドで「ジャがいも心地 一番搾りごま油と岩塩」を発売し、厚切りポテトチップス市場の更なる活性化を図りました。

当社が打ち出す高付加価値商品の先駆けとなった「KOIKEYA PRIDE POTATO」シリーズでは、2020年2月に大型リニューアルを実施しました。TVCMによる広告宣伝を行い、最大拡販を図るとともに、ブランドの定着と新規ユーザー獲得に努めました。

この他、昨年価格改定を一時弱含んでいたコイケヤポテトチップスやカラムーチョなど定番商品群の売上が、第2四半期以降改善傾向をみせてきたことで、物流費や一部原材料費の価格上昇を吸収することができました。

以上により、国内の売上高は24,879百万円（前年同期比4.7%増）となり、セグメント利益は677百万円（前年同期比11.6%増）となりました。

<海外>

台湾事業では、大手小売チェーンからの販売促進費用の厳しい要求が続く中、収益性の高いコーンや小麦原料の商品拡販が引き続き好調で、売上、利益ともに前年を上回りました。

ベトナム事業では、大手小売チェーンの販売が好調なほか、タイへの輸出販売を開始し、売上が大幅に伸長しています。一方、個人商店に対する販売効率改善はチャネル構造の見直しを行うなど順次進めています。結果、営業利益の改善に効果が現れ始めています。

タイ事業では、カラムーチョが大手小売チェーンを中心に販売好調で、加えてベトナムから輸入販売を開始したスコーンも、現地大手コンビニエンスストアで導入されています。結果、売上、利益ともに堅調な事業展開となっています。

以上により、海外の売上高は2,411百万円（前年同期比37.3%増）となり、セグメント損失は159百万円（前年同期はセグメント損失213百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ360百万円増加し、22,892百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の増加（1,538百万円）の一方、現金及び預金が減少（1,338百万円）したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ307百万円増加し、10,542百万円となりました。主な要因は、未払金の増加（508百万円）及び賞与引当金の増加（317百万円）の一方、買掛金が減少（389百万円）したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ52百万円増加し、12,349百万円となり、自己資本比率は53.5%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年8月9日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,295	3,956
受取手形及び売掛金	5,599	6,467
商品及び製品	824	1,036
仕掛品	—	16
原材料及び貯蔵品	476	544
その他	273	413
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	12,468	12,431
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,079	2,202
機械装置及び運搬具(純額)	2,367	3,004
土地	1,594	1,622
その他(純額)	147	898
有形固定資産合計	6,189	7,728
無形固定資産		
その他	408	467
無形固定資産合計	408	467
投資その他の資産		
その他	3,465	2,265
投資その他の資産合計	3,465	2,265
固定資産合計	10,063	10,460
資産合計	22,532	22,892
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,720	3,331
未払金	3,434	3,943
未払法人税等	153	280
賞与引当金	7	325
役員賞与引当金	—	15
その他	691	332
流動負債合計	8,008	8,229
固定負債		
役員退職慰労引当金	336	—
退職給付に係る負債	1,766	1,786
その他	123	526
固定負債合計	2,226	2,313
負債合計	10,235	10,542

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,269	2,269
資本剰余金	2,153	2,153
利益剰余金	7,887	7,977
自己株式	△2	△2
株主資本合計	12,309	12,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40	△2
為替換算調整勘定	△57	△69
退職給付に係る調整累計額	△105	△88
その他の包括利益累計額合計	△122	△161
非支配株主持分	110	112
純資産合計	12,297	12,349
負債純資産合計	22,532	22,892

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
売上高	25,513	27,290
売上原価	15,889	16,875
売上総利益	9,624	10,415
販売費及び一般管理費	9,238	9,916
営業利益	385	499
営業外収益		
受取利息	11	10
受取配当金	2	2
投資有価証券売却益	—	47
補助金収入	0	64
持分法による投資利益	1	2
その他	53	9
営業外収益合計	69	136
営業外費用		
支払利息	2	3
投資有価証券売却損	—	18
固定資産除却損	—	11
その他	5	13
営業外費用合計	7	45
経常利益	447	589
税金等調整前四半期純利益	447	589
法人税、住民税及び事業税	253	396
法人税等調整額	△37	△140
法人税等合計	216	256
四半期純利益	231	333
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	29
親会社株主に帰属する四半期純利益	214	303

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	231	333
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△43
為替換算調整勘定	6	△10
退職給付に係る調整額	17	16
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△1
その他の包括利益合計	22	△38
四半期包括利益	253	294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	238	263
非支配株主に係る四半期包括利益	15	30

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社の在外連結子会社は、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(以下「IFRS第16号」)を適用しております。IFRS第16号の適用により、借手のリース取引については、原則として全てのリースについて資産及び負債を認識しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、スナック菓子の製造販売を中心に事業活動を展開し、「国内」、「海外」の2つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が、「海外」においては在外連結子会社が、それぞれ独立した経営単位で事業活動を展開しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	23,756	1,756	25,513	—	25,513
セグメント間の内部売上高又は振替高	54	—	54	△54	—
計	23,811	1,756	25,568	△54	25,513
セグメント利益又は損失(△)	606	△213	393	△7	385

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△7百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,879	2,411	27,290	—	27,290
セグメント間の内部売 上高又は振替高	65	—	65	△65	—
計	24,944	2,411	27,356	△65	27,290
セグメント利益又は損失 (△)	677	△159	517	△18	499

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△18百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は前連結会計年度まで食品関連事業の単一セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分について、今後の事業展開、経営資源の配分、及び経営管理体制の観点から見直した結果、経営情報をより適切に表示する目的で、従来の食品関連事業の単一セグメントから「国内」、「海外」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。